

目標（1）

まちへの想いを育み、
未来を切り開くチカラを高めます



▲しあわせづくりフォーラム

Ⅰ. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分にできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。 ◇ 職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

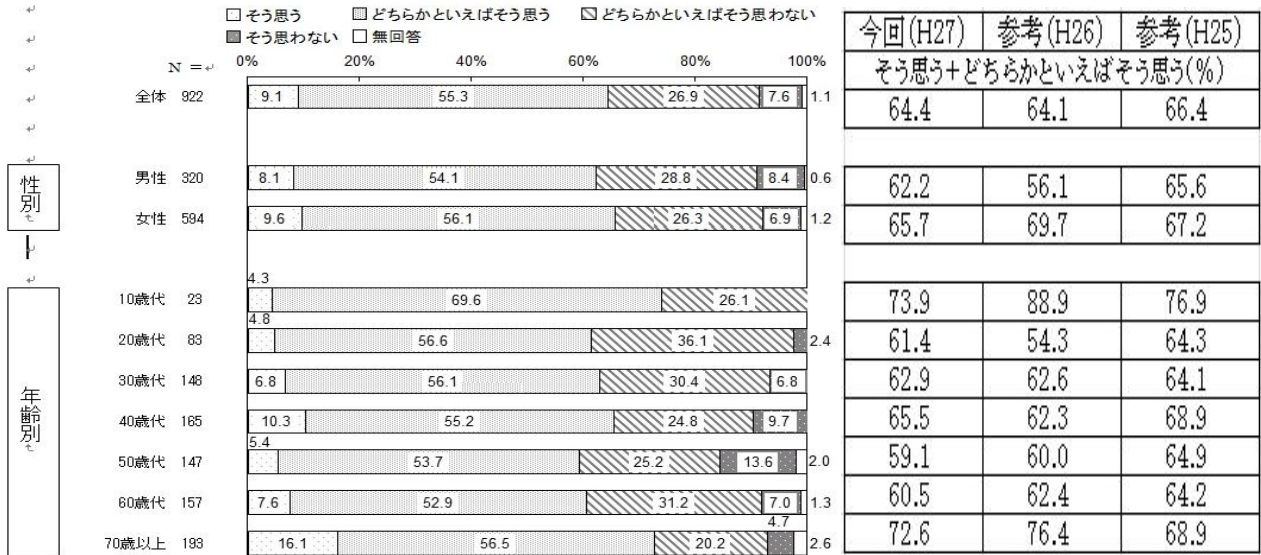
こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
（1）市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。	①ホームページのトップページリニューアルを行った。	H27.10
	②市政情報を手軽に入手できるように、広報 1/1 号より「i 広報紙」の配信を開始した。	H28.1
	③市政に対する関心・理解を広める広聴活動として「まちづくりトーク&トーク」を実施し、広報にその模様を掲載した。	H27.12 H28.3
（2）市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。	①まち協サミットにおいて、交付金制度の見直しを協議した。	H27.6～ H28.3
	②まちづくり協議会特派員が中心となり、地域計画の見直しを支援した。	H27.6～ H28.3
	③自治基本条例検証委員会を開催し、検証報告書を完成させ、市長へ提出した。	H27.5～10
（3）“大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。	①しあわせづくりフォーラムを開催した。	H28.3
	②しあわせづくり計画（本編及び別冊）を策定した。	H28.3
	③高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。	H28.3
（4）現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。	①若手職員成長支援研修（やってみよMyプロジェクト）を開催した。	H27.4～ H28.3
	②第3期たかほま地域経営実践塾（塾長：大杉覚氏）を開講した。	H27.5～ H28.3
	③全庁的な2S活動・標準化活動を実施した。	H27.6～ H28.3
参画・協働・情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆フェイスブックで双方向型の情報共有を進めている。 ☆交付金のあり方検討においては、各まち協の想い・悩み等を聞き取りながら、丁寧な意見交換を心がけた。 ☆しあわせづくり計画ワークショップのメンバー募集については、市内の商店や企業、高校、他の事業で絡みがある大学生へのアプローチなど、新たな層の人材発掘に努めた。 	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

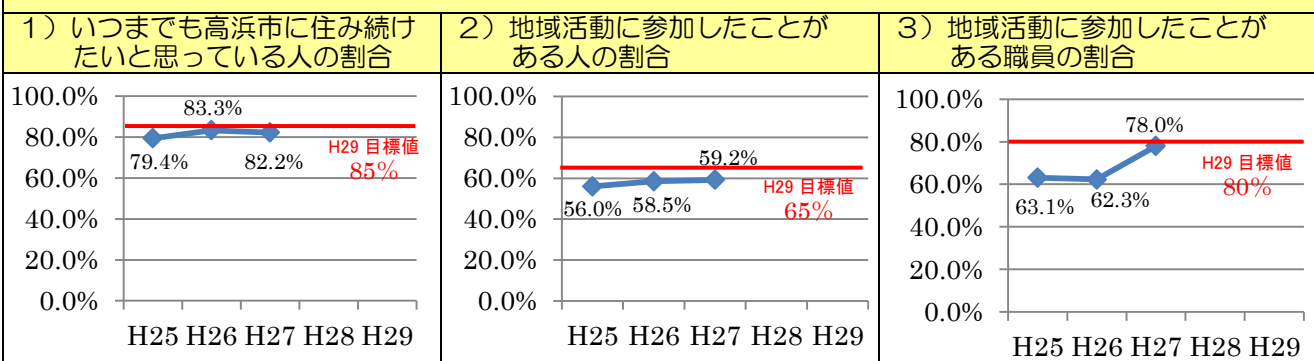
1. 市民意識調査結果

【設問】まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う

現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
66.4%	64.1%	64.4%			○



2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- ・指標1) 2) は策定時と比べてそれぞれ2.8%、3.2%の増と伸びているが、前年と比較すると指標1) は1.1%の減、指標2) は0.7%の微増と、伸びが鈍化している。いつまでも高浜市に住み続けたいという気持ちは、まちへの愛着・誇りの高まりとともに自然と醸成されていくものと思われるが、「高浜市に愛着や誇りを持っている人」の割合は、策定時と比べて2.1%減少しており、まちへの愛着・誇りを高めるための取組みが必要である。
- ・指標1) 2) の概要を市民意識調査報告書から見ると、10～30歳代の若い世代の割合が全体に比べて大きく低下している。しかし、10～40歳代で「地域活動に参加したことがある」と回答した割合は、前年に比べて増加しているため、今後も若い世代をターゲットに、高浜市の良さや地域活動の意義・効果等の発信など、まちへの興味・関心・好奇心を高める取組み、地域活動への一歩を踏み出せるようなきっかけを幅広く創出していくことが大切である。将来を見据え、粘り強く地道に取り組んでいく必要がある。
- ・指標3) は、前年と比べて15.7%の増と大幅に上昇した。これは、地域活動に参加しているにもかかわらず、地域活動に参加していないとしていた職員を精査したことによるものである。今後は、目標値の達成に向け、職員の地域活動参加を促進するために作成した「職員の地域との関わり方にまつわるQ&A」などを活用し、地域活動への積極的な参加を働きかけていく必要がある。
- ・市民意識調査の結果は、策定時と比べて2.0%の減、前年と比べて0.3%の微増となっている。これまでまちづくりの裾野を広げる取組みを進めてきた結果、地域活動への参加は活発になっているが、住民同士・団体同士の連携・協力にはまだつながっていないと考えられる。男女別の割合に焦点を当てると、前年比で男性が6.1%の増、反対に、男性に比べ趣味・ボランティアサークルなどグループ等に属して活動するケースが多い女性の割合が、4.0%の減とバラツキが見られた。また、年代別で見ると50・60歳代の割合が全体と比べ低くなっており、定年後にまちづくりの担い手として活動していただけるよう、地域デビューのきっかけづくり・後押しできる仕組みづくりが必要である。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（1）まちづくりの裾野を広げる取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民意識調査の設問である「まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思ふ」人の割合が策定時に比べ低下している。まちづくりに参加するためのきっかけづくりを進めるとともに、市民活動情報や活動効果の発信強化が必要である。 指標1) 2)の結果を見ると、特に20・30歳代の割合が全体と比較し大きく低下している。若いうちからまちに対して愛着や誇りを持ち、自分のまちを“こうしたい”“よくしていきたい”と考える人を増やすための取組みが必要である。 市民意識調査の結果を見ると、50・60歳代の「市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思ふ」人の割合が低くなっており、シニア世代へのアプローチが必要である。 市民がまちづくりに参加しやすい環境を整えるため、職員がまず「参画・協働・情報共有」の意識を常に持つことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報やフェイスブック等を活用しながら、まちの良さ、まちづくり協議会や町内会活動など現在行われている地域活動の内容や活動に対する想い、成果などの見える化をさらに強化することで、まちづくりを身近なものと感じ、まちのことを「自分のこと」として考え、まちづくりに参加する人を増やしていく。 「まちづくり出前授業」のさらなる発展を図り、子どものうちから“まちのことが好き”と言える人、まちづくりの一步を踏み出す人を増やしていく。また、保護者にも参加を呼びかけ、まちづくりの大切さを訴えていく。 平成27年度に策定した「しあわせづくり計画」について、市民、特に若い世代の市民とともに“実践”していける仕組みを構築していく。 シニア世代が地域デビューしやすいきっかけになるような方法（例：研修会、講座、フォーラムなど）を検討・実施する。 平成27年度に策定した「参画・協働・情報共有のガイドライン」に沿った行動を行うよう、新人職員研修の一環として伝えていく。 	<p>H29.3</p> <p>H29.2</p> <p>H29.3</p> <p>H29.3</p> <p>H28.4</p>
<p>（2）交付金制度の見直しによる「地域の総合力」基盤のさらなる強化</p> <ul style="list-style-type: none"> （仮称）一括交付金制度の導入に向け、提案とりまとめのプロセスや、「おさいふ会議」などを通して、課題を踏まえた事業立案、交付金の使い方について説明責任を果たし、透明性を高めることにより、多くの市民に参加・協力が得られる事業としていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おさいふ会議」の開催を通して、交付金を使って各小学校区がどのように課題解決に取り組むのか、事業の必要性（目的、解決すべき課題）や効果等について説明責任を果たし、活動等の透明性を高めていく。 	<p>H29.2</p>
<p>（3）「若手世代」の地域活動に参加するきっかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の若者、これは職員も含め地域活動への参加が少ないように思える。いかに“きっかけ”を提供できるかが問題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「若手世代」の地域活動に参加するきっかけづくりを創出していくため、第3期たかま地域経営実践塾での取組みを踏まえた「若手職員成長支援研修」を進めていく。 若手職員による「職員による職員のための研修」を計画。職員が自ら研修を企画し、運営するために、年間を通して地域について学び、自分事として考えることで、地域活動参加の“大切さ”や“楽しさ”を次の世代に伝承する仕組みとしていく。 	<p>H28.4</p> <p>H29.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆文字サイズ、色など広報誌面デザインにも市民意見の反映を行う。 ☆一括交付金制度の説明会開催にあたっては、市民に制度の趣旨・目的・内容を十分理解していただけるよう、聞き手の立場に立ったわかりやすい説明を心掛ける。 ☆若手職員成長支援研修では入庁後から地域に目を向けた研修を行っていく。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

•

★第2回（7/22）・第3回（8/5）推進会議での担当グループからの発表を聞いた上で、各委員からいただいたご意見を記述する。

•

以下同様

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

•

•

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

•

•

その他、目標の達成に向けて

•

•